

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 富山国際大学附属高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒930-0175

富山県富山市願海寺水口444

E-mail info@tuins-h.ed.jp

Website http://www.tuins-h.ed.jp

幼児児童生徒数 男子384名 女子438名 合計822名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「ESDの推進」を教育目標の一つとし、ESDの実践を通して広い視野で社会貢献できる「生きる力」の育成を中・長期的目標としている。具体的には、ユネスコ部(部活動)が主導する「幸せ遺産プロジェクト」を柱に、以下のような活動を行った。

4月 ニュージーランド姉妹校パ克蘭ガ・カレッジとの交流…写真①

「幸せ遺産プロジェクト」の紹介、相互プレゼン(両国より遺産候補の紹介)

7月 ロシア沿海地方ダンススポーツ交流会訪問団との交流…写真②

9月 文化祭展示(「幸せ遺産プロジェクト」の紹介) 姉妹校リサーチ

12月 オーストラリア姉妹校ヒルズ学園訪問…写真③

タイ姉妹校プラトゥムナク・スアンクラブ・スクール訪問

1月 韓国姉妹校大田外国語高校との交流…写真④

「幸せ遺産プロジェクト」の紹介、相互プレゼン(両国より遺産候補の紹介)
書き損じはがきプロジェクト

3月 中国姉妹校潞河中学・オーストラリア姉妹校ビショップ・ドゥルーイット・カレッジ訪問



①ニュージーランド姉妹校パ克蘭ガ・カレッジとの交流（幸せ遺産プロジェクトの紹介）

②ロシア沿海地方ダンススポーツ交流会訪問団との交流

③オーストラリア姉妹校ヒルズ学園訪問

④韓国姉妹校大田外国語高校との交流（幸せ遺産プロジェクトの紹介）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ユネスコスクール公式サイト http://www.unesco-school.mext.go.jp/ など 国立教育政策研究所教育課程研究センター ESDリーフレット 文部科学省 ESD推進の手引き（初版）
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>◎ ESD型授業の研究開発 各教科でアクティブラーニングの手法を取り入れ、「思考力」を中核に、それを支える「基礎力」、その使い方を方向づける「実践力」という「21世紀型能力」を身につける ESD型授業の研究開発に取り組んでいる。</p> <p>◎各教科・科目の年間指導計画（シラバス）に、「ESDの観点」という項目を追加。学習指導要領と関連づけながら、指導方法の工夫改善を図っている。</p>

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

<p>◎毎年文化祭で、ESDに関する企画・発表・展示を行っている。</p> <p>◎「国際理解講座」を年18回程度開講している。</p> <p>◎ ESDの生徒向け啓発 毎年7月に1年生向け講演会を開いている。講師は大阪府立大学の伊井直比呂先生</p>
--

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年行っている、外部評価委員による学校外部評価に、ユネスコスクールとしての活動、ESDの推進についての評価項目がある。評価は、概ね良好である。

今後、内部評価に盛り込んでいくことも検討していく。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

◎「幸せ遺産プロジェクト」

「高校生が後世に残したいもの」を姉妹校等と協働して選定していき、その過程を通してESDの重要性を理解し、グローバルな視点とマネジメント能力を身につけた、世界平和に貢献できるグローバル人材を育成する。

今年度、ユネスコ部が発足。上記の姉妹校・協力校にプロジェクトの趣旨をプレゼンテーション、協力を呼びかけた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

・金沢大学 鈴木克徳教授（北陸ESD推進コンソーシアム）に、本校のアドバイザー的役割をお願いしている。

・富山ESD講座（富山県内のユネスコスクールが参加）との連携

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

⑤と同様、「幸せ遺産プロジェクト」で上記の姉妹校・協力校にプロジェクトの趣旨をプレゼンテーション、協力を呼びかけた。
うち、タイ姉妹校のプラトゥムナク・スアングラブ・スクール、中国姉妹校の潞河中学はユネスコスクール。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

生徒は、講演会や授業、諸活動等により、「持続可能な社会・文化」とはどのようなものか、理解を深めつつある。

教員も、教育活動のあらゆる場面においてESDを意識し、授業や諸活動に取り入れている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

ユネスコスクールの世界的なネットワークを活用し、これまで以上に多くの学校と交流を広げていく。具体的には、環日本海の国々のユネスコスクールと姉妹校提携を増やし、本校が拠点校として交流を密にしながら「高校生が後世に残したいもの」を協働して選定していき、その過程を通してESDの重要性を理解して、グローバルな視点とマネジメント能力を身につけた、世界平和に貢献できるグローバル人材を育成することを目標に活動する。平成30年度は特に、遺産選定への具体的プロセスを進めていく。
また、さらなるホールスクールアプローチを目指し、諸活動に工夫を凝らしたり、職員研修を行ったりし、ESDをさらに推進していく。